

2004年8月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、アラスカ付近や大西洋東部からロシア西部にかけては、高緯度側に正偏差、低緯度側に負偏差が分布して分流傾向だった。シベリア北部の90°E 付近には顕著な負偏差が見られた。極東域については、カムチャッカ半島の南から日付変更線にかけて帯状に明瞭な負偏差が分布し、その南側の亜熱帯高気圧は平年よりも強かった。

熱帯の対流活動は、フィリピン付近からその東海上にかけて平年より活発で、活発域は日付変更線付近まで広がっていた。フィリピン東海上の対流活動が活発だったことに対応して台風が8個発生した。インドネシア付近では平年より不活発、インド洋赤道域では、東部で平年より活発、西部で不活発だった。太平洋のITCZ（赤道収束帯）は平年よりも北寄りだった。

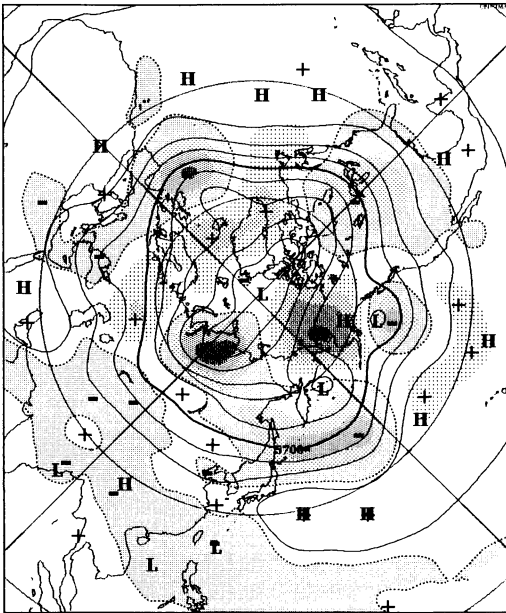
850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、フィリピンの東海上には大きな低気圧性循環偏差が分布し、10°N 付近では強い西風偏差となった。日本の南東海上とインド洋には高気圧性循環偏差が分布した。

ダーウィンの気圧偏差は+0.3 hPa、SOI（南方振動指数）は-0.5となり、ダーウィンの正偏差、SOIの負偏差は6月以降続いている。

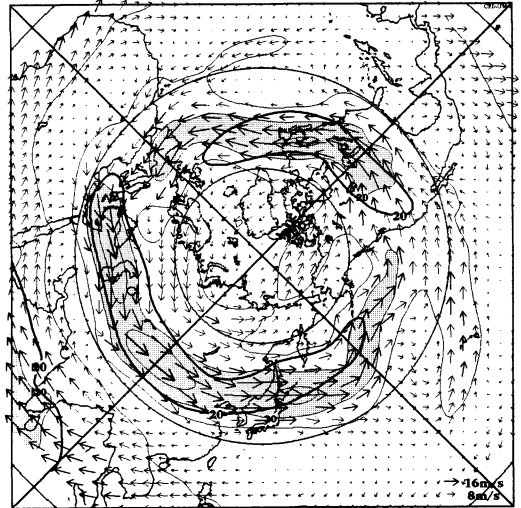
世界の天候

- ① インドネシア周辺の高湿・少雨
- ② インド東部の高温
- ③ ヨーロッパ北部からグリーンランドの高温
グリーンランドの Ittoqqortoormiit では月平均気温が8.1°Cとなった（平年：4.5°C）。
- ④ ヨーロッパ東部の多雨
- ⑤ ヨーロッパ北西部の多雨
- ⑥ アフリカ西部の高温
- ⑦ 米国東部の多雨
ハリケーン「チャーリー」により、ベリーズから米国で20人以上が死亡したと報じられた。
- ⑧ 米国中西部から南部の低温
ミネソタ州インターフォールズでは月平均気温が13.4°Cとなった（平年：17.8°C）。
- ⑨ 米国北西部の多雨
- ⑩ カナダ西海岸からベーリング海峡付近の高温
アラスカでは森林火災の焼失面積が過去最大規模の2万平方キロに達したと伝えられた。
- ⑪ メキシコ東部の少雨
- ⑫ メキシコ南部の高温
（気象庁気候・海洋気象部気候情報課 中村理恵）

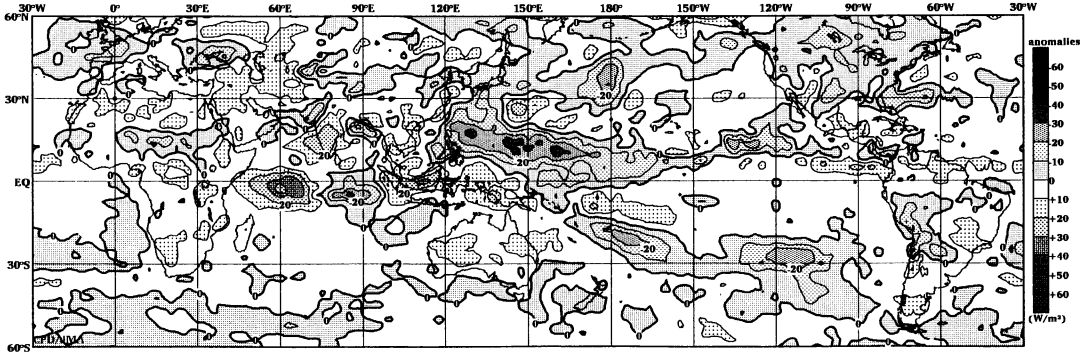
anomalies
-180 -150 -120 -90 -60 -30 0 +30 +60 +90 +120 +150 +180 (m)



2004年8月の北半球月平均500 hPa 高度および年偏差
等値線間隔は60 m、偏差パターン間隔は30 m、年偏差は1979～1993年のECMWF15年再解析データによる。

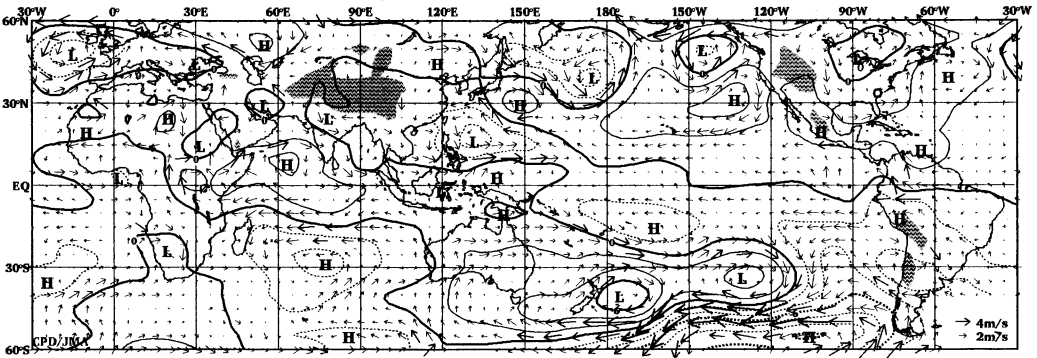


2004年8月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は10 m/s、陰影部は20 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の20 m/s以上の領域を示す。年偏差は1979～1993年のECMWF15年再解析データによる。



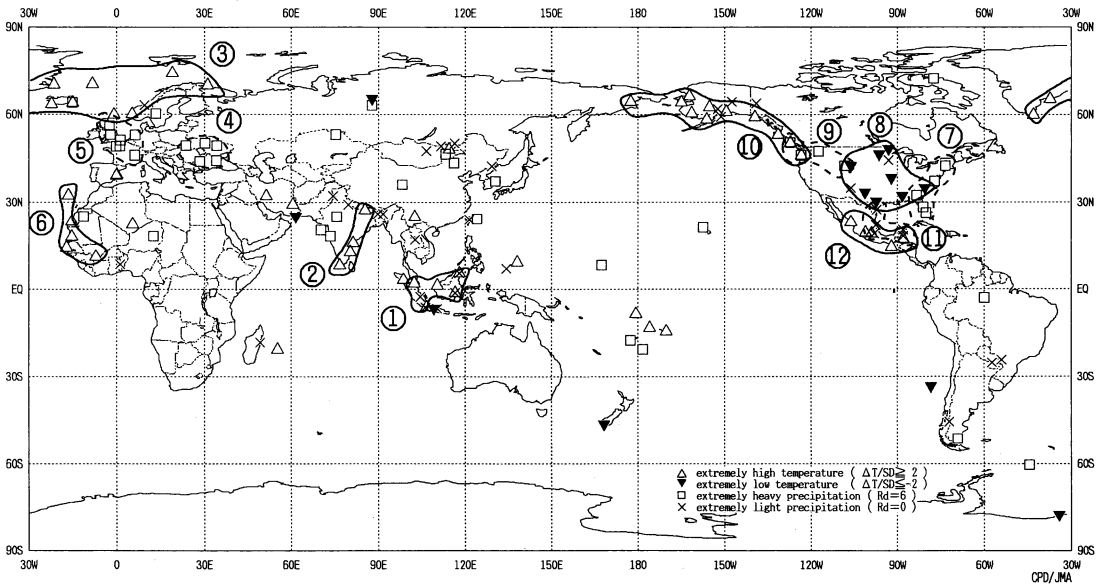
2004年8月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は 10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは CPC/NCEP/NOAA、平年値は1979~2000年のデータから作成。



2004年8月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2004年8月の世界の異常天候分布図

△異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の2倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。図中の番号は本文中の番号と対応している。